

会派視察研修計画書

平成29年9月6日

碧南市議会議長 様

会派名 新政会

代表者名 沓名 宏 印

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	沓名宏、杉浦哲也、林田要、小林晃三、生田綱夫、鈴木良和、山中謙治、鈴木清貴、祢宜田拓治、新美交陽	
日 時	平成29年11月8日（水）～平成29年11月10日（金）	
視 察 先	沖縄県那覇市	
研修内容	第79回全国都市問題会議 ～ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略～	
日 程	11月9日（木） 沖縄県那覇市 9:30～17:00 11月10日（金） 沖縄県那覇市 9:30～11:50	
交通手段	公共交通機関 <input checked="" type="checkbox"/> 航空機利用 乗降車駅名（ 碧南中央駅 ）	自家用車利用 <input type="checkbox"/> 台 所有者名（ ）

会派視察研修報告書

平成 29 年 12 月 7 日

碧南市議会議長 様

会派名 新政会

代表者名 沓 名 宏

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 10 分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	沓名宏、杉浦哲也、林田要、柘宜田拓治、新美交陽、小林晃三、生田綱夫、鈴木良和、山中謙治、鈴木清貴
日 時	平成 29 年 11 月 8 日（水）～平成 29 年 11 月 10 日（金）
視 察 先	沖縄県那覇市
研 修 内 容	第 79 回全国都市問題会議 ～ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略～
日 程	11 月 9 日（木） 沖縄県那覇市 9:30～17:00 11 月 10 日（金） 沖縄県那覇市 9:30～11:50
備 考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

会派視察研修成果報告書

平成29年12月6日

議員氏名 沓名 宏

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成29年11月9日（木）～平成29年11月10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市
- 3 視察の種類 新政会会派視察
- 4 視察の成果等

今回の「全国都市問題会議」は、全国市長会が主催され、79回を迎える会議である。全国市議会議長会が主催する会議には、数回参加しましたが、この会議には初めて参加をさせていただいた。近隣の市長・議員も何人かお逢いをした。一日目の午前は基調講演で「多様性のある江戸時代の都市」と題して、東京大学史料編纂所の山本博文教授の参勤交代がもたらしたものなどの講義であった。午後からは、首都大学東京大学院人文科学研究科の山下祐介准教授が「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」北海道釧路市、蝦名大地市長は「自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり」最後に琉球大学観光産業科学部長が「新たなステージに入った沖縄観光」についてそれぞれ報告された。

二日目は「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略」と題してコーディネイターは早稲田大学理工学術院の後藤教授、五名のパネリストとのパネルディスカッションが行われた。福井県勝山市長と静岡県島田市長は各市の特徴やPRが中心で両市に行ってみたいほどであった。あとは、教授や評論家の考えは全くだが、やはり机上論である。

二日間、議員として政策立案を首長に提案できるための、身になった講演であったと思う。祢宜田市長も、今後参考にされることを期待します。

視察研修成果報告書

平成29年11月22日

議員氏名 杉浦哲也

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成29年11月 8日（水）～平成29年11月10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市（全国都市問題会議）
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

*那覇市

沖縄県那覇市で開催された第79回全国都市問題会議に初めて出席しました。この会議は、全国市長会などが主催して毎年開催しているもので、今年のテーマは「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略」として、二日間にわたり、基調講演と主報告、3つの一般報告、パネルディスカッションとたくさんの内容でした。

初日に基調講演を行った東京大学教授の山本博文氏のお話しでは、江戸時代のまちづくりに触れながら、参勤交代による人の移動によって、街道や宿場町が繁栄し、全国的なまちの発展に繋がっていったということでした。また、一般報告の中では、首都大学東京准教授の山下祐介氏が「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」と題して講演されましたが、市町村合併を含めて2000年代の政府の改革を失敗としながら、「選択と集中」という思考ではなく、「人と人がお互いを認め合う」という考え方を基に、多様性のあるまちづくりこそ、人口減少社会を乗り越えるためのキーポイントになると強調されていたことが印象に残り、今後の重要な課題であると認識しました。

二日目のパネルディスカッションでは、行政が投手としてよい球を投げる努力をするとともに、それを地域でコーディネートし、推進してく捕手の役割が重要だと強調されていましたが、これについては、とても難しい問題であると感じました。

いずれにしても、今回の都市問題会議に参加させていただき、人口減少社会の中で、全国の各都市において、市民との協働で地域資源を活かしながら試行錯誤され、より住みやすいまちづくりを目指し努力されていることが解りました。また、これからの地域の創生戦略の重要性と新たなまちづくりについて、改めて考えさせられる機会となった大変有意義な会議でした。

会派視察研修成果報告書

平成 29年 11月 30日

議員氏名 林田 要

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成 29年 11月 9日（木）～平成 29年 11月 10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市全国都市問題会議
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等

11月9日から10日の2日間にわたり、那覇市にある沖縄県立武道館にて開催された第79回全国都市問題会議へ出席した。

これは毎年、全国市長会が主催しており、全国の自治体首長を中心に我々議員らを対象とした実際の施策事例の報告や、大学教授による最新の研究報告、パネルディスカッションを通じたケーススタディで構成されている。

初日は東京大学の山本教授の基調講演に始まり、城間那覇市長ら4名の報告があった。2日目は会議の主題である「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略」に基づき、早稲田大学の後藤教授がコーディネーターとなり、5名のパネリストによるディスカッションが開催された。

先ず初日であるが、山本教授の基調講演は史料編纂所長としての見識から、テーマに沿った講話がなされた。内容としては「多様性のある江戸時代の都市」と銘打ち、主として当時の全国各都市における地域の特色を活かしたまちづくりについて、参勤交代による都市間移動による消費活動の特徴などがあげられた。結論として各自治体の歴史的遺産を活かすことの優位性が語られた。碧南市においては、以前よりてらまちウォークを始めとする歴史遺産の活用はすすめてきており、基調講演の内容がそのまま活かせる可能性は低く感じざるをえないものであった。また参勤交代といった歴史事実を差っぴいても、都市間移動の手段は変化しており、リニア開通に対するリアクションも碧南市においては優先順位の高いものではないといえる。

次に各報告について、城間那覇市長の報告では、主に那覇市を中心とした沖縄県の可能性を順に説明なされた。結論としてはアジアというキーワードに集約されるが、あくまで行政視点での報告に留まっており、それは当然ではあるが、地方議会議員としては変化していくための具体的な施策に乏しさを感じた。次に首都大学東京の山下教授による人口減少社会の実像と自治体の役割について、研究報告がなされた。従来の過疎化をふまえた全国規模の政策に真っ向から異を唱えつつも、具体的な施策についての提言までは踏み入れることが無かったため、地方議会議員として得るものは少なく感じた。インフラの選択と集中などは、既に全国のいずれの自治体でも進めている事例があり、未だに前向きでない自治体に対する研究が必要なのではないだろうか。ただし、一般的な報道機関より発表されるイメージに捉われることなく、あらゆる角度から調査資料を得ているかといった研究する上での基本に立ち返る姿勢を改めて確認できたことは有意であった。

次に蝦名釧路市長による現役首長としての報告がなされた。道議まで経験された方の報告であったため、具体的な事例による報告がなされた。特に昨今の地方分権に係る地方と都市の関係性の再構築への道のりは勉強になった。観光を中心としたまちづくりの中で、民間活力を十分に活かしているのか、それをいずれの自治体も課題と捉えているが、実際に先を見通した施策までは届いていない現状

を正確に数値化できることが重要であるとのこと。碧南市においても数値化による理解の共有は執行部、議会共に今後の重要課題であると考えているところである。初日最終報告者は琉球大学の下地教授による沖縄観光における複合リゾートに関する報告であった。観光とツーリズムの違いに始まり、徐々に変化しつつある沖縄の迎え方に対して、インフラの質、サービスの質の向上といった従来のあり方に加え、MICE複合、研究を含めた観光地経営の質向上といった新たな視点でもって今後の自治体の観光施策について提言をなされた。碧南市においても、点と線で結ぶのみでなく、高さを加えた分析を試みる必要性を強く感じた。

2日目はパネルディスカッションということで、今回の全国都市問題会議のテーマに沿ったパネリスト同士の討論が期待されたが、会議の性格上、それぞれの自治体のPRに終始した感が否めなかった。また開催地である沖縄県那覇市といった特色が活かされていない点も、会議の性格上、仕方の無いことかもしれないが、今後、同様のセミナー等へ行政視察を検討する際は注意が必要であろう。会議の全行程に出席するか、別日程を組んで現地自治体の先進事例を学びに行くべきか、慎重を要することを付記し、以上視察報告とする。

視察研修成果報告書

平成29年11月28日

議員氏名 柘宜田拓治

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 日 平成29年11月8日（水）～10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市
- 3 視察の種類
会派（新政会）
- 4 視察の成果等

《9日》

視察先：「第79回全国都市問題会議」那覇市（沖縄県立武道館）開催

テーマ：「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略」について

開会挨拶：全国市長会会長 松浦正人 氏

開催市市長挨拶：那覇市長 城間幹子 氏

(1) 基調講演：「多様性のある江戸時代の都市」

講師：東京大学史料編纂所教授 山本博文 氏

江戸時代の町の特徴は、江戸に象徴される都市の巨大化と城下町・宿場町・港町など多様な町の発展とのこと。

幕府の所在地である「江戸」には、全国の大名が藩邸を構え、参勤交代で国元と江戸を往復し、そのため武家人口が飛躍的に増加し、彼らの需要に応じるために商人や職人の増加をみた。

江戸時代の大都市の発展は、諸国の城下町の発展に支えられていた。

三都（江戸、京都、大坂）が多くの人口を養うことができたのは、諸国の食料が集まってきたからである。

参勤交代制度は、街道と宿場の発展をもたらし、都市の一人勝ちにならないような全国的な整備、発展につながり、街道や宿場が進んだことで、庶民の行き来が活発になり、流通網の整備により、全国的な物流の発展につながった。

全国各地の多様な性格を持つ町が相互に影響し合って発展した時代であるとのことであった。

(2) 主報告：「ひと つなぐ まち」（新しい風をつかむまちづくり）

報告者：沖縄県那覇市長 城間幹子 氏

まず、那覇市が、沖縄本島の南部西海岸に位置し、古くから東南アジアの各都市を結ぶ交通の要衝地点として発展してきたことや那覇空港。那覇港を擁してアジアとの商業貿易拠点として今後ますます発展する可能性を秘めていることを意気揚々と話された。

その後、那覇の持つ固有・独特の文化や世界遺産とうの人気観光スポットをはじめ、路地裏の魅力も発信することによって、那覇の持つ魅力を発信し、更なる人気を博したい旨を語られた。

また、那覇の持つ課題やそれを打開する新たな施策（文化芸術を通じてひと・まちを元気にし、魅力ある那覇市を形成するための「新文化芸術発信拠点施設」の建設）の計画を進めているとのこと。

アジアに開かれた市として、国内外から優れたヒトやモノが集い、そこから新しい付加価値を生み出し、ますます魅力ある躍動感あふれる那覇市にしていきたいとのことであった。

【所感】

那覇の魅力や課題、今後の発展に向けての計画等を話されたが、あくまで那覇市のことで、教訓や参考すべき点はあまりなく、残念だった。

失敗から学ぶ点は多いので、このような報告の際にはそれも考慮すべきであろう。

(3) その他の報告等について

- ・首都大学東京の山下裕介準教授は「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」について報告された。

今回の地方創生の本来の問題意識は、このままでは止まらない人口減少を止めるというものであり、東京一極集中によって引き起こされているとして問題化されていた。

それを、丁寧なプロセスを省略して「まずは、仕事から」「すべては稼ぐ力」と誤った方向に転換されてしまったところに、本質的な問題解決を妨げる原因があるとのこと。

一極集中を解消する鍵は、地方におけるインフラ整備、安定的な確保であると言われた。

「選択と集中」という考えこそが、東京一極集中の原因であり、人口とインフラの適正規模、適正配置が人口減少社会を食い止める、今なされるべきことと言われた。

- ・この他、北海道釧路市長の蝦名大也氏の「自然と年が融合し、共生が地域の価値を高めるまちづくり」として、地域が持つ地理的、人的、歴史的財産の活用や10戦して3勝の市政運営（行政は1戦1勝が期

待されるが)、将来を見据えたまちづくりを進めたいという報告がなされた。

また、琉球大学観光産業科学部長教授の下地芳郎氏からは「新たなステージに入った沖縄観光」という題で、直径1,400キロに及ぶ49島からなる沖縄の複合的な魅力を有するハイブリッドリゾート(スポーツキャンプ、イベント、リゾートウエディング、ビジネスリゾート、ショッピング、クルーズ、ウエルネスツーリズムなど)への進展を提案されたが、それには、サービスの充実、インフラ整備、独特な沖縄文化の継承・発展、様々な文化が融合した沖縄をいかにPRするかが期待され、問題であると言われた。

《10日》

視察先：9日と同所

テーマ：9日と同様(パネルディスカッション)

コーディネイター：早稲田大学理工学術院教授 後藤春彦 氏

パネラー：静岡県島田市長染谷絹代氏始め5名

それぞれのパネラーが自分の地域や仕事に関連して、テーマ「ひとつながる都市の魅力と地域の創生戦略」を発表し、お互いに質問しあって論議を深めた。

これらの中で気を引いたのが、①工場見学などの産業観光案内の発展性への注視②感動立県③人づくり④明るくわくわく、そして元気⑤エコミュージアム(地域全体を博物館として捉え、地域の歴史と風土がつくってきた遺産を地域住民が評価し、保存し、活用することによって地域の活力を生み出す考え方)であった。

【所感】

発表は、えてして、自分の市や取り組みのPRのみになりがちであるが、その中でもわが市に取り込めるものはあった。前述の①～⑤はその一部ではあるが、本市の創生に役立つものと考えてるので、今後この視点も加味しながら議会活動を行って行きたいと思った。

今回の視察も大変勉強になりました。

視察研修成果報告書

平成29年11月15日

議員氏名 新美 交陽

記

- 1 期間 平成29年11月8日～10日
- 2 視察先 沖縄県那覇市・全国都市問題会議
- 3 視察の種類 新政会
- 4 視察の成果等

「人口減少社会の都市の役割」

人口減少→バランスが崩れている。適正な配置が必要である。

都市のみ力 古代 都 - 王の居住地 - 国 (政治、祭事、軍事)
市 - 宗教的な結界

- ・人々の正の交流が必要
- ・家と村が国を成立させている→国のおかげで人々が安心して暮らせる
- ・道→都の力につながるもの
- ・国を発展させる装置
- ・地域を分割→市町村である→税金→生活の安定→国へ→地域
この流れの結節点が都市である
- ・どこかの都市が発展すれば良いのではなく、全体としてバランスが必要であり各地の力を集めて他地域へ活かす

それが2010年代になり変わってきた

- ・東京→極集中→国家権力の集中
- ・時間と空間のアンバランスの是正が必要
- ・東京出生率1.13(出生率2.07は再生産必要)→一番生まれにくい状況である
- ・仕事と暮らしがバランスしていない
- ・都市型→公的サービス中心
- ・行政依存度・高い→農村でも起きている

- ・待機児童解消だけでは駄目
- ・選択と集中は問題がある－排除→不安(若い人)と悪循環
- ・補助金頼りから脱却必要
- ・国家権力集中解消－地方分権必要
- ・地方は稼げ－国民がやる－やればやる程東京は出生率 1.13 のままである
- ・ふるさと納税は一時的なものである
- ・地方は駄目→東京へとになっている
 - ↳ インフラ必要(第一に必要)－住民に担ってもらおう
- ・高齢者増(団塊)
- ・第三次ベビーブームが無い(稼げ稼げのツケ)
- ・バランスを取り戻す
- ・国民の意識変化－東京の金を地方へ出すのはおかしい－この考えはおかしい
- ・生産は地方、東京は本社のみである－本社のみが儲けている

コンパクト化はおかしい

高級レストラン－素材－地方
 飲食店－東京 } どちらもバランス良く儲ける

現在は東京のみ設けている

◎観光－お金を落とすことのみ－ホテルのある都市のみ

↳ 交流(よその人が来てくれて、成り立たなければならない)

・「稼ぐ」では偏っている

◎バランスよく配分必要

◎人口ビジョン

・地方創生はおかしい

事業－補助金の確保競争となってしまう

・出生率が止まるところを見つける

・振興策(国が金を出す)

} これが初めてのテーゼであった

原因は「まち、ひと、しごと」

「しごと」第一がバランスを崩している

なり手(若い人)がいない

第一次、第二次、第三次バランス崩れている

- ・自分第一の不安から手堅い仕事を選んでいる
- ・地方のインフラを整備し、バランスを取り戻す必要がある
- ・第一次での不安を無くすシステムの確立
- ・不安解消－地方に残って仕事出来る

・仕事にバランス良く配置必要

◎合併－失敗だった－子どもが生まれない社会になった

価値の問題－市民・自治体

長期的な経営が必要

農村の素材と都会の飲食店のどちらもバランス良く設けるようにする必要があるという指摘は的を得ていると思う。高級店のみが儲けるだけではいけない。

補助金を当てにしない地方ということは的を得ていると思う。しかし、コンパクトシティを否定し、人口の少ない地方のインフラを整備が必要との意見には同意し難い。

地方分権と言っているが、要は中央省庁の大規模な移転が伴わなければ地方分権は画餅になる。人口が減ることは避け難い事であり、その前提でこれからの地方、市政を運営すべきである。

視察研修成果報告書

平成29年11月20日

議員氏名 小林 晃三

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成29年11月9日（木）～平成29年11月10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市 「第79回全国都市問題会議」
- 3 視察の種類 新政会
- 4 視察の成果等

11月 9日（木）

「第79回全国都市問題会議」 基調講演 一般報告
テーマ「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略」
基調講演では東京大学の山本博文氏が講演に立ち、江戸時代の大都市である「江戸」がいかんして発展してきたか、そして、参勤交代制度によって街道や宿場の発達、人のつながりを作ってきたか。その流通網の発展により全国的な物流・人の流れが生まれた。全国の多様な町は相互に影響しあい発展した時代であるとの講演がなされた。
一般報告では、首都大学の山下祐介氏が「人口減少社会の実像と都市自治体の役割」と題して講演され、多様性のあるまちづくりにとって政府が推し進めてきた2000年代の市町村合併は失敗であり「選択と集中」という考え方でなく、「お互いを認め合う」考え方で多様性のあるまちづくりが人口減少社会には必要であるとの講演がなされた。

11月10日（金）

「第79回全国都市問題会議」 パネルディスカッション
パネルディスカッションではコーディネーターに早稲田大学の後藤春彦氏、パネラーに静岡県島田市長染谷絹代氏はじめ5名で「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略」をテーマにパネルディスカッションを行った。
そのなかで、行政と地域の連携の重要性が強調されていたが、また、その連携の難しさも指摘されている。
所感：二日間にわたり貴重な講演やパネルディスカッションでの「全国都市問題会議」でした。全国の特徴のある市の市長さんや関係者のお話は、残念ながらすべてにおいて碧南市に置き換えて考えることはできないが、その中でも、それぞれ工夫をこらし、知恵をしぼり、まちづくりに邁進していることが良くわかりました。市議会議員としては碧南市のまちづくりに集中していきたいと考えているが、今回の全国都市問題会議に出席して様々な課題、問題にふれ大きな視野でのまちづくりや未来に向けた継続可能なまちづくりも同様に検証していくべきだと感じました

視察研修報告書

平成29年11月4日

議員氏名 生田 綱夫

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成29年11月9日（木）～平成29年11月10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市 沖縄県立武道館
- 3 視察の種類 会派視察研修 新政会
- 4 視察の成果等

11月9（木）・10日（金）

研修内容 全国都市問題会議

全国都市問題協議会初の沖縄開催、会場へは2,200名の参加にて開催

「ひとつながり都市の魅力と地域の創生戦略」と命題し全国各地の報告とパネルディスカッションにて進められた。

会議日程 1日目

基調講演 多様性のある江戸時代の都市

東京大学土史編纂所教授 山本 博文

主報告 ひとつながりまちー新しい風をつかむまちづくりー

沖縄県那覇市長 城間 幹子

一般報告 人口減少社会の実像と都市自治体の役割

ー人口とインフラの適正な持続的配置はいかに可能か？ー

首都大学東京大学院人文科学研究科准教授 山下 祐介

一般報告 自然と都市が融合し共生が地域の価値を高めるまちづくり

北海道釧路市長 蝦名 大也

女性の社会進出が本当に良いのか？ 0歳児保育の体制が本当に良いのか？

女性の管理職の枠の拡大、男女共同参画など色々と問題があると感じるのは私だけであるだろうか？

全てが悪いと言っている訳ではないのだが、根本的にもっと社会保障の充実を必要とし、女性が働きに出なくとも扶養制度の充実を図って行く事が重要と考える。

女性の中にも、本当に仕事中心で行きたい人はそれを重んじる社会も一部には必要だが、社会全体で今は総社会進出を目指していることが、少子化や結婚率の低下、さらには介護者の不在や高齢者の独居世帯の増大につながっている。

地域社会の創生の前に、家族創生を必要とする現代社会の現状を見極め、上辺の改革でなく、根本的な改革が将来的な地域創生につながると感じた。

視察研修成果報告書

平成29年11月15日

議員氏名 鈴木良和

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成29年11月9日（木）～平成29年11月10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市・全国都市問題会議
- 3 視察の種類 新政会
- 4 視察の成果等

テーマ・ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略・新しい風をつかむまちづくり
地域の創生をめざして資料に896という数字が書かれていました。人口減少問題検討分
科会が発表した「2040年までに消滅する恐れがある896市町村」のことで
2010年の国勢調査に基づいた試算で2040年時点で20～39歳の女性人口が半
減する自治体を「消滅可能性都市」とみなしている。つまり女性が減少し、出生数が減
っていき、人口が1万人を切ると自治体経営そのものが成り立たなくなるということ
を示しているもので、その数は全国約1800市町村のうち約半分に相当している。
「50年後に1億人の人口を維持する目標」などを踏まえて安部政権は地方の人口減少問
題を主要政策課題として位置付けた。「まち・ひと・しごと創生本部」を創設し「まち・
ひと・しごと創生法」と「地域再生法の1部を改正する法律」を可決・成立させた。
今回の勉強会で都市の魅力とは何かにおいて「経済的魅力」「生活的魅力」「文化的魅力」
「社会的魅力」の4つに分けることができると唱っていました。本市においては「ひと
のつながりある都市の魅力」を掲げ地域コミュニティーは住民の生活に「安心」を提供し、
それ自体が社会的魅力になっている。祭りや伝統芸能もまた地域コミュニティーによつて
支えられており文化的魅力の創出に一役買っているとされます。
山車が巡行する全国の33の祭りが「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に
登録されたことは記録に新しい。これらの祭りの多くが地域コミュニティーによつて山車
の制作や保全が行われ、伝統行事として脈々と受け継がれてきた。地域コミュニティーの
活性化は都市の魅力を高めていくうえで欠かせないものであると言われている。
本市においては過去に、にんじんサミット、しょうゆサミットというテーマで市内外に発
信されたことは今後の碧南市にとっては良いことと思います。平成30年に市制70年
に当たり、犬山市・魚屋町、碧南市・大浜とのからくり人形・兄弟名乗り30年、大浜
てらまちとあわせ3サミットが共同で行われたいか。何年かに、一度このような3団
体が協力してより大きな企画が行われたいかと考えます。
最後に2日間にわたる関係者各位、感謝を申し上げ視察報告といたします。

会派視察研修報告書

平成29年11月20日

議員氏名 山中 謙治

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成29年11月 8日（水）～平成29年11月10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市
- 3 視察の種類 新政会
- 4 視察の成果等

●第79回全国都市問題会議（11月9日～11月10日）

ひとつがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略をテーマについて講演と聞く。

現在の都市形成は江戸時代に形成されたと言われている。

江戸・京都・大阪は「三都」と称され、江戸は徳川家の城下町であるとともに幕府所在地であり、全国の大名が藩邸を構え、武家人口が飛躍的に増加し、彼らの需要に応じるために商人や職人の人口が増加して大都市を形成した。

京都は朝廷の所在地で、多くの社寺の本山もあり、伝統的な手工業の都市を形成し、大阪は「天下の台所」と称され、諸国の年貢米が集まり商業都市を形成した。封建制度に基づく江戸時代の「幕藩体制」は、大都市の一人勝ちにならない構造になっていた。

さらに、参勤交代により街道が整備され宿場町が発展し、街道・宿場町の整備が進んだことで、庶民の旅行の次第に行われるようになり、伊勢参りの代表される観光地が成立し、門前町も発展した。

また、全国的な流通網が形成されたことにより、港町も発展した。

しかし、現在は社会のグローバル化や交通の飛躍的な進歩により、東京の一極集中化が進み、少子高齢化社会到来により益々地方都市との格差が広がっている。

そうした状況の中、今日、全国自治体においてまちづくりの未来を予感する新しい風が吹いてきた。そのひとつが「ひとの動き」が活発化である。

昨年、訪日外国人旅行者が200万人を超え、今後も増加行く。

国内においては東京圏への転入超過数が減少に転じ、地方移住が注目など、変化の兆しが見られる。

観光に目を向けると、従来のような集客施設や観光資源をめぐるツアー観光から、まちを歩き、地域の文化や歴史に触れ、住民との交流を楽しむ体験型・滞在型観光へと、トレンドが変化している。

移住についても、若者を中心として、濃密な人間関係や仕事と生活が一体化したライフスタイルを志向する「田園回帰」が注目されるようになった。

今回、ひとがつなぐ、都市の魅力と地域の創生戦略について報告を拝聴したが、明確な観光資源があり、観光を中心としたまちおこしの実例がほとんどであり、碧南市の現状では参考しにくい。

碧南市は将来人口7万人と想定しており、人口維持していくためにも行政とともに、多くの住民参加を促し、協働を前提とした碧南市独自の政策形成していかなければならない。

また、竜の子街道プロジェクトのように4市協働にて地方創生を検討していくのも良いと思う。

会派視察研修報告書

平成29年11月30日

議員氏名 鈴木清貴

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成29年11月8日（水）～平成29年11月10日（金）
- 2 視察先 沖縄県那覇市 沖縄県立武道館
- 3 視察の種類 会派行政視察
- 4 視察の成果等

- (1) 第79回全国都市問題会議に出席
基調講演「多様性のある江戸時代の都市」
講師：東京大学史料編纂所教授 山本博文氏

幕藩体制を維持する参勤交代制度が、街道や宿場町を整備することとなり、宿場町の発展と交通網・流通網も発展した。江戸の生活文化が参勤交代より全国に普及し、日本の町の原型を作り上げた。

主報告「ひと つなぐ まち -新しい風をつかむまちづくり-」
講師：沖縄県那覇市長 城間幹子氏

沖縄市の地勢的な紹介と地理的な交通の要衝としての那覇市を紹介。
観光都市那覇市の課題点と今後の取組について講演。

一般報告3題

翌日は、パネルディスカッション

テーマ「ひとがつなぐ都市の魅力と地域の創生戦略
-新しい風をつかむまちづくり-

コーディネーター：早稲田大学理工学術院教授 後藤春彦氏

パネリスト：静岡県島田市長 染谷絹代氏

福井県勝山市長 山岸正裕氏

まちとひと 感動のデザイン研究所代表藤田とし子氏

㈱能作代表取締役代理 能作千春氏

沖縄文化芸術振興アドバイザー 平田大一氏

後藤氏より産業観光による地方創生についてとパネルディスカッションの進め方についてお話しがあった。

染谷島田市長からは氏の紹介と市民参加型シティプロモーション「島田市緑茶計画」や新たな取り組みについてお話しを頂いた。

山岸勝山市長からは市の紹介と共に地域の歴史と風土が作ってきた遺産を地域住民が評価し保存し活用することによるふるさとルネッサンスについて紹介された。

藤田氏からは自身関わってきた町おこし事業について紹介された。

能作氏からは、鋳物工場としての産業観光への取組と、思いについてお話しを頂いた。

平田氏からは文化・芸能を基調とした観光産業＝感動産業への取組と、歓迎アトラクション現代版組踊について子どもたちの取組についてお話を伺った。

以上を持って2日間の会派視察を終了した。